

## 論文

## 中国・延辺朝鮮族自治州紀行—歴史と現在

鄭 雅 英\*

## 要旨

1952年に創設された中国吉林省延辺朝鮮族自治州は、中国内にあって中国語とともに朝鮮語やハングルが公用化されている少数民族自治区の一つであり、この地では国境、国籍、民族が複雑に重なり合いながら独特な社会文化を織りなしている。一方でこの地は19世紀以来、封建王朝の衰退と欧米日帝国主義による侵略と支配、民衆の抵抗と革命運動、急進的な社会主義建設と極端なまでの自由主義経済導入に至るまで歴史的・社会的に激しい振幅を繰り返し、人々の暮らしにも大きな変容をもたらしてきた。

本稿では、延辺と中国朝鮮族にまつわり今なお議論の焦点となっている歴史課題を振り返るとともに、今日の延辺朝鮮族の生活状況や延辺と南北朝鮮、延辺と日本の関係を概観し、東アジアにおける民族と文化の交錯地ともいべき延辺と、そこに生活する人々の持つ多様性と豊かな可能性を考察する。

## キーワード

中国朝鮮族, 移民, 少数民族, トランスナショナルなネットワーク

## 目 次

- 1, はじめに
- 2, 民族と国境
- 3, 在中国朝鮮人から中国朝鮮族へ
- 4, 変容する延辺朝鮮族社会
- 5, 延辺と朝鮮半島
- 6, 延辺と日本
- 7, おわりに

---

\* 立命館大学経営学部教授

## 1, はじめに

島国の日本で生まれて暮らしていると、「国境」の存在は縁遠く感じられるのが普通だろう。それなのに、国境と聞くと何かしらロマンティックな響きを感じるのはなぜだろうか。

日本から最も近い距離で国境を体感できる場所が、中国吉林省の東南部延辺朝鮮族自治州にある。延辺州首府の延吉(イェンジー: 中国語/ヨングル: 朝鮮語)までは、2015年夏に開通した大阪からの直行航空便で2時間半ほど、延吉から同じく2015年秋に延伸開業した高速鉄道に乗り換えて40分で終着の琿春(フンチュン)に至り、再びタクシーに乗り換え快適な舗装路を2時間走ると、「三国国境」で名高い防川(パンチョン)に到着する。観光用の展望台に登って景色を見渡せば、右手に豆満江(中国名: 図們江)がゆったりと流れ、前方には豆満江の左岸に広がる美しい緑地と森の間から陽の光に輝く小さな湖がのぞいている。豆満江の対岸は朝鮮民主主義人民共和国、豆満江左岸は展望台から数キロ先までは中国領だが、日本海まで注ぐその下流域はロシア領となっていて、よく目を凝らすと中露国境に沿って設置された鉄条網も確認できる。つまりこの地では、地上を走る中朝露三国の国境を一望で見渡すことができるのである。

「中朝露国境」と聞いて大方の日本生活者が一方で思い浮かべるであろう危険、緊張といった空気は、ここではほとんど感じられない。夏から秋にかけての観光シーズンには、中国内外から押し寄せる観光客で展望台は超満員の様相を呈する。とはいえ、歴史に多少の思いを馳せれば、この国境をめぐる余り穏やかならざる<sup>いきさつ</sup>経緯も蘇るのである。ロシア帝国が太平天国の乱(1851-64年)やアロー号事件(1856-1860年)に苦しむ中国・清朝に付け込み、1858年の愛琿(アイグン)条約と1860年の北京条約で奪い取った沿海州の最南端が豆満江河口の東岸域であり、その結果、おおよそ中朝の国境を分けて流れる豆満江が日本海に注ぎ込む最下流の15キロ区間のみ、川は朝露国境となった。防川が三国国境の交錯地となる所以であり、中国からすれば日本海への出口を封じられた形となった。すでに中露間の国境は画定しているとはいえ、中国の歴史書では今でも「沿海州は帝国主義ロシアに不当に奪われた」と記述されることが多い<sup>1)</sup>。また、ノモンハン事件の前哨戦ともいわれ日ソ両軍の激突した張鼓峰事件(1938年)の戦闘現場はこの三国国境地域にあり、「満洲国」を捏造支配した日本にとっても因縁浅からぬ土地である。さらに加えて、韓国では豆満江を中朝国境と認められるのか、という議論(後述)が今でも燻っており、この地が北東アジアの複雑な歴史の交錯地であることを、あらためて思い知らされる。

1) 《朝鮮族簡史》编写組『朝鮮族簡史(修訂本)』民族出版社。2009年、pp.6-7

ともあれ、この三国国境に立って晴れた日なら微かに遠望される日本海に向けて流れ続ける国境の川豆満江を眺めながら、注ぎ込む海の対岸にある日本列島に思いを致せば、東京や京都、大阪で考えるそれとは全く異なった東アジアの輪郭が浮かび上がるはずである。さてそれでは、この国境の交錯する延辺なる地に暮らす朝鮮族とは、どういった人々なのであろうか。近年では日本に留学する中国朝鮮族学生の数も増え、ひとところに比べれば彼／彼女らに対する認知度も上がってきたように思えるが、巷間では相変わらず「脱北者？」などと取り違えられたりするものが実情である。

以下、延辺朝鮮族自治州に暮らす人々の来し方と今日の姿を通じて、もう一つの東アジアの輪郭を描いてみようと思う。

## 2, 民族と国境

古来より、東アジアでは人々が頻繁に移動を繰り返してきた。島国の日本でさえ、朝鮮半島を含むユーラシア大陸の各地から、はたまた琉球、台湾、ポリネシアなどはるか南方の地より荒波を乗り越えて多くの人々が、この穏やかで豊かな大地を求めて移住し、相互に融け合いながら多様な生活と文化を育んできた。大陸と地続きの朝鮮半島もまた、大陸と島々の中間点に位置しながら北から南へ、あるいはその反対方向へと様々な個人や集団を受け入れ、あるいは送り出しながら歴史を刻んだ。東アジア東端のこの一角は、様々な意味で「ハイブリッド」に営まれてきた地域なのであり、21世紀の現代、この地域に群生する「国家」が自らをあたかも単一の民族や人種で構成されているかのように装い（錯覚し?）、国境を隔てて相互に対抗心をむき出しにするさまは実に滑稽というほかない。

朝鮮半島と中国の間では古代から人の往来や移住が盛んで、その中には戦乱の際に虜囚として集団的に中国に連れていかれた朝鮮の民のいたことが、元王朝以降の中国の歴史書に記録されている。そのほとんどは漢民族、モンゴル民族、満州民族などに編入されて文化的に同化し、その足跡を消しているが、明末清初（日本で徳川政権が立ち上がった17世紀初頭）に朝鮮王朝下から俘虜として後金（清王朝の前身）領土の現・河北省青龍県や遼寧省本溪県などに連行された人々（多くは朴氏を名乗る）の一部は、自分たちが朝鮮半島出身者の末裔だという意識を後世に伝え続けた。文化大革命の終了した1980年代初頭、中国共産党政権の少数民族優待政策が回復され始めたころ、上記の地に住む1800名ほどの人々が、自分たちは400年近く前に朝鮮半島から移住した者の子孫であり、漢族とされている民族登録を朝鮮族に変更してほしいと集団で当局に申し出る意外な事態が起こった<sup>2)</sup>。中国政府は様々な調査と検討を経て、この申

2) 朴昌昱『中国朝鮮族歴史研究』延辺大学出版社、1995年、pp.7-17。延辺大学の著名な歴史学者だった著者は同書の中で、中国と朝鮮・韓国の間で議論になっている渤海史の民族的帰属について「渤海は高句麗遺

し出を受理している。朴氏 400 年の歴史も興味深いが、それにもまして、「民族」の境界がかなり適当なものであることを公認した当時の中国政府の柔軟な姿勢に、感心させられるエピソードである。

もちろん、上記の朴氏が現代を生きる中国朝鮮族全体の祖先ではありえない。中国における公的な歴史解釈では、自然災害の続いた 1860 年代初頭、朝鮮王朝の苛斂誅求に苦しんだ朝鮮北部の農民が豆満江、鴨緑江を越えて中国側で定住するようになり、それが中国朝鮮族の出発点だとする。朝鮮人が多数入植した豆満江北岸一体は、「間島」(ほぼ現在の延辺)と呼ばれるようになった。

しかし、国境線をめぐる問題はここでも顔を出す。満州民族が北京を都に建国した清王朝は、18 世紀から故地である中国東北部一帯に満州民族以外の立ち入りを禁ずる封禁政策を取っていたが、それ以前から豆満江と鴨緑江を越えて貂や朝鮮人参などの天然資源を狩猟・採集し、あるいは土地を開墾する朝鮮人が絶えなかった。業を煮やした康熙帝は国境線画定のため 1712 年吉林総督の穆克登に白頭山(長白山)一帯を調査させ、白頭山頂からおよそ 4 キロ南東に下った場所に「定界碑」を建てて、そこを鴨緑と「土門」の分水嶺とした。穆克登は土門を豆満江(図們江)と意図していたが、定界碑の地点から流れ出る小川は豆満江ではなく、何と満州平野を北に蛇行し吉林、ハルビンを経てアムール川に流れ込む松花江の支流であることが後に判明した。松花江以南は朝鮮領ということになるため、19 世紀になってから間島帰属をめぐり中朝間で議論になった<sup>3)</sup>。

さらに厄介なことに、その後豆満江を中朝国境とすることを国際法上約定したのは日本と中国(清朝)間で 1909 年に結ばれたいわゆる「間島協約」であり、当該者であるべき朝鮮は当時すでに日本の保護国にされて外交権を失っていた。自分たち朝鮮民族のあずかり知らないところで勝手に国境線を引かれた、という思いが韓国社会では現在でも沈殿している。ついでに言えば、1962 年中国の周音来首相が訪朝し金日成首相と交渉した末、白頭山頂のカルデラ湖天池を朝鮮側 54.5%、中国側 45.5% の配分になる線で国境となす中朝境界条約が結ばれている。韓国はこれにも反発し、元来、朝鮮民族の領有地である白頭山を金日成が中国に売り飛ばした、という俗説がメディアで流されたりもした。ただし 1962 年以前に白頭山域はほぼ中国側の管轄下にあり、同条約は中国側の大幅な譲歩だったと見なすのが妥当である<sup>4)</sup>。

もう一つ付け加えると、2000 年代に入って中国の学界では古代の高句麗王朝を中国史の中に位置づけようとする研究プロジェクト、所謂「東北工程」が活発化した。高句麗や渤海は中

民と靺鞨族が共同して建立し、彼らは渤海族を形成した」とし、ナショナリズムに偏した歴史議論を批判している。同書 pp.36

3) 강석화 「白頭山定界碑와 間島」『韓國史研究』96号, 1996年

4) 이종석 『북한-중국관계 1945-2000』중심, 2000年, pp.231-236

国の地方政権であり、したがって延辺州など中朝国境近隣地域は中国の「固有の領土」だというメッセージが伝わる。高句麗、渤海を自民族の古代史に位置づける韓国世論は大いに沸騰し、外交上での議論<sup>5)</sup>にまでなった。実は韓国側でも、紀元前に存在したとする「古朝鮮」の領土は中国東北部から内モンゴルまで広がっていたというナショナリズムに親和的な歴史言説があり<sup>6)</sup>、間島帰属問題とも関連して中国側をいら立たせてきた。近代国民国家の理屈で歴史上の古代国家帰属を論じること自体が、そもそも矛盾に満ちているのだが、いずれの国にせよ国家権力や特定のナショナリズムに安易に追従する「研究者」が存在することは深刻な問題である。

### 3, 在中国朝鮮人から中国朝鮮族へ

多数の朝鮮人が中国東北部に越境・移民を始めた 1860 年代、清朝政府は封禁政策を順次解消し朝鮮人移民はさらに増加した。特に豆満江北岸地域は平地が広がり水利も良いため、各地に朝鮮人集落が作られるようになった。清朝政府は朝鮮人農民に対し「剃髮易服（髪をそって辮髪にし、中国風の服に変える）」を入籍と土地使用の前提とし、漢民族に比べて土地権でも不利な条件を設定するなど厳しい対応で臨んだ<sup>7)</sup>が、朝鮮人の移住は続いた。正確な人口統計はないが、20 世紀初頭に延辺の朝鮮人人口はおよそ 16 万人とする記録がある<sup>8)</sup>。

朝鮮人の中国東北部への移民が急増するのは、1910 年日本による朝鮮植民地支配以降のことである。朝鮮総督府による強権的な農村収奪によって自作農・自小作農など中堅農民の生活が打撃を受け、朝鮮農民のうちで移動の余裕を残していた者は鉄道と徒歩で中国を目指すか、釜山からの連絡船に乗って日本に向かった。1931 年「満州事変」によって日本は中国東北部を軍事占領し「満洲国」という事実上の植民地を作り出した。「満洲国」で実権を握っていた日本関東軍や「満鉄」は日本農民の大量移植を想定したが、実は当初の目論見ほどに日本人農民の移民は集まらず<sup>9)</sup>、いわばその埋め合わせの一環として 1930 年代後半には朝鮮人農民の政策的な満洲移民が進められた<sup>10)</sup>。1945 年には、200 万人前後の朝鮮人が中国東北部で生活

5) 2006 年ヘルシンキで行われ ASEM（アジア欧州会議）で、盧武鉉大統領は中国の温家宝首相に口頭で抗議を申し入れた。

6) 중앙일보, 2016.6.28” 大고조선이나 小고조선이나 고대사 논쟁 다시 격렬해진다”

7) 前掲『朝鮮族簡史（修訂本）』, pp.14

8) 沈茄秋『延邊調査實録』1930 年（1987 年、延辺大学出版復刻）、pp.15

9) 気候や地質の日本との違いや現地における抗日運動の激化など中国東北部での営農が極めて厳しいものであることは、日本でも知られていた。また 1937 年の日中戦争開戦後は軍需用食糧増産や徴兵による労働力不足で、日本農村が積極的に満洲移民を送り出す根拠は急速に薄れていた。1930 年代後半の「満洲開拓移民団」送付は、「満洲国」経営を目的に軍部が強行したものである。小林信介『人びとはなぜ満洲へ渡ったのか—長野県の社会運動と移民』世界思想社、2015 年参照

10) 「在満朝鮮人指導要綱」（1936 年）、「鮮農取扱要綱」（1938 年）、「満洲開拓政策基本要綱」（1939 年）に

していたとみられる。ただし日本の「満洲開拓」の実質は、中国人農民の土地を強奪したり買収して日本人と朝鮮人農業移民に分け与えるというものだった。排斥された中国人農民の反発は根深く、日本敗戦後に日本人移民が現地の中国人から襲撃を受けたのは当然と言わざるを得ないが、「日本人の手先」と見なされた朝鮮人集落への襲撃事件も多発した。日本敗戦と祖国解放に加え、こうした社会不安によって数十万人の朝鮮人が中国内から朝鮮に戻った。残された 100 万人ほどの朝鮮人は、しばらく不安定な生活を余儀なくされる。

一方で、日本の植民地時代には多数の朝鮮人独立運動家も中国に難を逃れ、延辺は朝鮮人独立運動の新たな拠点になっていた。1919 年朝鮮の三一独立運動を契機に、中国東北部の各地に朝鮮人武装組織が結成され、日本支配への武力闘争が繰り広げられるようになる。1931 年の「満州事変」後、日本の帝国主義支配に対する抵抗運動の中核になったのは、コミンテルンの「一国一党」原則で中国共産党に入党した中国の朝鮮人共産主義者たちだった。

1936 年中国東北部で抗日パルチザン闘争を展開していた中国人と朝鮮人は、東北抗日聯軍を組織して日本軍と「満洲国」への抵抗を強めた。その中の朝鮮人部隊を率いていた士官の中には、金日成がいたことでも知られる。彼らは度重なる日本軍の大規模「討伐」に「ゲリラ的に反撃しながら 1940 年末まで耐え忍び、金日成ら生き延びた少数が国境を越えてソ連領に入ってソヴィエト赤軍に編入され、ハバロフスク近郊の野営地で日本の敗戦を待った。一方、中国閩内にも朝鮮人独立運動家が多数亡命しており、1938 年には中国国民党の指導下で左右合作の武装組織「朝鮮義勇隊」が組織された。ここでも左派の影響力は強く、ほどなくして朝鮮義勇隊の主力は華北の太行山にある中国共産党解放区に移動し、1942 年には朝鮮義勇軍を名乗り八路軍とともに日本軍との抗戦に参加した。

日本敗戦直後、ソ連沿海州にいた抗日聯軍と華北の朝鮮義勇軍は中国東北部に進出する。朝鮮に帰国した金日成ら一部幹部<sup>11)</sup>を除く朝鮮人部隊は、中国東北部に残って朝鮮人農民の治安を確保し、さらには共産党側に立って国共内戦に参戦した。中国共産党は、延辺はじめ東北各地の朝鮮人にも中国人と同様に農地を分配し、その生活権を保障する<sup>12)</sup>。中国に生活していた朝鮮人の多くは、初めて自分の農地を獲得し安堵した。一方、国民党政権は中国在朝鮮人の土地・財産を没収したり朝鮮人集落への襲撃を放置するなどしたため、延辺の朝鮮人社会では中国共産党への信頼感が広まった。

---

基づく。規定上は募集によって毎年 1 万戸を移民させるとしていた。

11) 朝鮮に帰国した幹部の中には、朝鮮義勇軍の政治組織である朝鮮独立同盟の金料奉らがついて、金日成らの満州派に対して延安派と呼ばれた。朝鮮戦争休戦後、金日成の政治権力が固まる過程で延安派はほぼ粛清された。

12) 中国人社会の中には朝鮮人への土地分配に反対する空気があった。民族工作に当たっていた中共延辺地委の劉俊秀(漢族)は「(中朝の)どちらも祖国」とつぶやく朝鮮人古老の声を聞き、当面の間は朝鮮人の祖国を朝鮮と認めつつ中国人と同様に土地分配を受ける権利を与える二重国籍政策を思い立ち実行された。英断だった。리준수 「조선족인민속에서」 『중국조선민족발자취총서 5 권리』 민족출판사, 1992, pp.731

国共内戦で共産党の勝利がほぼ確定した1949年初、延辺の帰属問題があらためて浮上した。同年1月、中共東北局が朝鮮族の各界有志から意見を聴取する目的の民族座談会が吉林省で開かれた。参加した顔ぶれが興味深い。まず延辺の行政責任者（専員公署専員）である林春秋で、彼は東北抗日聯軍出身で金日成とともに朝鮮に戻り平安南道書記を務めていたが、中国側に請われて延辺に戻っていた。そのほか延辺古参の抗日パルチザンでモスクワ留学経験を持つ吉林日報朝鮮語版主筆の林民鎬、朝鮮義勇軍出身で東北行政委員会民族事務処長の朱徳海と同じく朝鮮義勇軍出身で延吉県長をしていた文正一など、総勢40余名の朝鮮人が集まった。

中共吉林省委書記の陳正人が司会をし、抗日聯軍で金日成の上司であった吉林省長の周保中（少数民族の白族）は中国の他の民族と平等な立場で朝鮮人も延辺を建設しようと演説した。林春秋は延辺人口のほぼ四分之三を朝鮮人が占めることや、その歴史的経緯から、延辺を朝鮮民主主義人民共和国に帰属させるべきだと主張した。林春秋の主張は、成立して間もない金日成政権の意思と無関係ではありえない<sup>13)</sup>。また当時の延辺朝鮮人社会には、朝鮮民主主義人民共和国を祖国と見なす空気が漂っていた。林民鎬は延辺をソ連式の加盟共和国とし、朝鮮人の経営に任せるべきだと主張した。これは延辺の朝鮮帰属への可能性を前提にした議論で、林春秋の主張に近い。これに対し、朱徳海は延辺を中国に所属させ、その民族政策（民族区域自治）に基づく朝鮮人自治地域とすることを主張した。この民族座談会は2週間余りも続き激論が交わされたが、朱徳海の主張した民族区域自治、すなわち延辺を中国領とすることが結論とされた。延辺の朝鮮帰属を主張した林春秋は同年3月に朝鮮に戻り、延辺の行政責任者は朱徳海に変わった。

こうして、中国に移民し長らく自身を「朝鮮人」と自認してきた在中國朝鮮人は、中国の公民権を持つ中国人、すなわち中国朝鮮族に生まれ変わることになる。とはいえ、当の朝鮮人自身は当然のこと、そう簡単にナショナリティは割り切れるものではない。事実、国共内戦が共産党側の勝利で決着がついた1949年、共産党側に立って参戦していた旧朝鮮義勇軍系の朝鮮人部隊兵士約5万は、朝鮮の金日成首相の求めに応じた中国共産党の方針に従って陸続と朝鮮に入境し、朝鮮人民軍に編入された。このうちの一部部隊は、朝鮮戦争時に朝鮮人民軍の主力として韓国軍と戦うことになる<sup>14)</sup>。さらに1950年6月に朝鮮で内戦が勃発し、朝鮮人民軍の後退で前線が北上中の9月20日、中国政府外交部は「朝鮮人民が帰国して祖国を衛衛し祖国の建設事業に参加することは、彼らの正当な権利であり神聖な責務である」と声明を出し

13) 現地の中国共産党機関紙『延辺日報』（朝鮮語）1948年11月2日付によれば、11月1日延吉市内で2万人の市民が参加し「朝鮮民主主義人民共和国成立慶祝大会」が開かれ、朝鮮民主主義人民共和国の国旗、国章と金日成の肖像画がスターリン、毛沢東のそれとともに大きく掲げられ、参加者は「朝鮮中央政府成立に喜びの声をあげ」「民族的自尊心を誇示しよう」だったと伝えている。当時の延辺状況は廉仁浩『もうひとつの韓国戦争—満州朝鮮人の「祖国」と戦争』歴史批評社、2010（韓国語）が良く紹介している。

14) 金景一「关于中国军队中朝鲜族官兵返回朝鲜的历史考察」『史学集刊』、2007年03期、pp.57-59

た。中国政府は 10 月 13 日に人民志願軍の名による朝鮮支援部隊の送出国を極秘裏に最終決定し、延辺では翌 10 月 14 日に延辺大学副校長の林民鏞がラジオ放送で先の外交部声明を「光明で正大」と評して朝鮮族の朝鮮参戦を促している<sup>15)</sup>。文字通り、中国の朝鮮人は二重国籍状態であった。ほどなくして延辺朝鮮人青年たちの「参軍ブーム」が現地朝鮮語新聞でしきりに報じられるようになるが、個々人の思いは当然にして様々で、半ば強制的な入隊と受け止めたケースもあり<sup>16)</sup>、実際に人的被害は大きかった。

朝鮮戦争勃発でやや遅れたが、1952 年 9 月吉林省延辺朝鮮族自治州（設立当初は「自治区」）が創設された。自治州だが政治的独立性はなく、省に管轄される地方行政組織である。朝鮮語を中国語と同様に公用語とすること、朝鮮語による公教育を認めること、財政的に一定の優遇を与えることなど、文化的自治の側面が強い。延辺州長（知事）に就任した朱徳海は、自治州創立準備段階から朝鮮族の集住している周辺地域も組み込み領域を拡大したうえで延辺をより上級の省級行政地域にすることを中央政府に要請したが却下され、後の文化大革命の際には紅衛兵から「朱徳海は延辺を朝鮮人の独立王国にしようと企んだ」と糾弾を受け、迫害されている<sup>17)</sup>。

延辺朝鮮族自治州創設は、朝鮮民族が朝鮮半島以外の地で曲がりなりにも自治を掲げ民族文化を維持発展させる空間を得た空前絶後の経験であり、正面から「多民族国家」を打ち出した建国期中華人民共和国の試みも当時としては十分に先進的だった。しかし、1950 年代後半から 20 年に及んだ政治動乱（反右派闘争－文化大革命）のなかで、マイノリティの民族性は「反階級的」として否定・批判され、朱徳海や林民鏞など古参の中共党員で朝鮮族社会の指導的地位にあった人物さえ軒並み打倒・迫害された。激動した現代中国の歴史の中で、延辺朝鮮族も有為転変の暮らしを避けがたかった。

#### 4、変容する延辺朝鮮族社会

1978 年に中国政府は開放政策に転じ、少数民族政策も建国初期の理念に立ち戻って一種のアフターマティブアクションが積極的に取られるようになった。少数民族地域への財政援助政策、公務員職への積極採用、一人っ子政策の緩和的適用<sup>18)</sup>、民族言語使用や教育の保障などであり、例えば全国統一の大学入学試験では少数民族学校出身者に 5 - 10 点の加点をするなどという規定もある。延辺朝鮮族自治州では、「朝鮮語文事業条例」（1988 年）「教育条例」（1994

15) 『東北朝鮮人民報』1950 年 10 月 17 日

16) 李海燕『戦後の「満州」と朝鮮人社会－越境・周縁・アイデンティティ』、お茶の水書房、2009 年、pp.171

17) 강창욱『주덕해』, 실천문화사, 1992, pp.243

18) 民族の人口規模に応じて 2 ないし 3 人の出産が認められる。

年)<sup>19)</sup> など文化自治を保障する取り決めが多数作られた。

それでは、延辺朝鮮族自治州の首府である延吉の街を訪ねてみよう。大阪から直行の航空便や北京から直通の高速鉄道（約9時間）も便利だが、北京から27時間（所要時間はこの20年間で5時間ほど短縮された）をかけ東北の最果て、豆満江に面した終着の図們を目指して延々と走り続ける寝台急行列車の旅も悪くない。広いコンパートメントは快適で、出発早々、あちらこちらの部屋から朝鮮語の語らいが聞こえてくるのも楽しい。連結された食堂車に座って東北の大地に沈む大きな夕日を車窓に眺めながら取る食事は、他に得難い味わいである。前日の夕刻に北京を出発した列車は、瀋陽、吉林を経て翌日の午後によく延辺州に入る。ただし州を西北から南東に横切る形で延吉に到着するまでは、意外と時間がかかる。広大な中国の地図で見るとちっぽけな延辺州だが、実は日本の九州ほどの面積があるのだ。夏は日の長い中国東北部でもすっかり日の落ちるころ合いに、列車は終点の一つ手前の延吉駅に到着する。

延吉駅前のバスターミナルから市内バスに乗って中心部へ向かう。運転台横の料金箱に1元（約20円）を投じてワンマンバスに乗り込むと、車内のスピーカーからは朝鮮語と中国語の音声案内が聞こえる。窓から街の景色を見ると、商店や食堂の看板はすべて中国語と朝鮮語のハングルが併記されていて、朝鮮族自治州に来たことを実感するだろう。これらは、前述の「朝鮮語文事業条例」で義務付けられているのである<sup>20)</sup>。ただし町中の看板表記も多様化が進む。朝鮮語の固有名詞を中国語に訳したもの（高麗、金剛山、阿里郎＝アリラン）は分かりやすいが、逆に中国語でよく使われる豊かさや幸運を表象する単語（鑫隆、双汇など）のなかには朝鮮語で用いることのない漢字が多く、漢字の朝鮮語読みをハングルで表記しても意味が分からず、また意識するのも困難という場合がある。多文化社会の難しい点だろう<sup>21)</sup>。もっとも現地の朝鮮族は、1950年代から確立された朝中二言語の学校教育を体験してほぼバイリンガルなので、あまり不自由は感じていないようだ。

朝中二言語が公用語とされている延辺だが、二言語教育を受けるのは原則的に朝鮮族だけで、主流派の漢族は学校で朝鮮語を学ぶことはない。近年、延吉の街の中で朝鮮語の会話に触れる機会が大いに減じている。例えば、1990年代までは朝鮮族が多く働いていた市内の商店やレストラン、ホテル、タクシー運転手などは軒並み漢族従業員に代わり、朝鮮語が通じない。朝鮮族自治州創設期に70%を上回っていた朝鮮族人口比率は、1960年代初頭に50%を割り込み、2014年現在では漢族60%に対し朝鮮族36%にまで減っている（残りは満族3%な

19) 「朝鮮族教育の優先的発展」を「戦略的地位に置く」ことが規定されている（第3条）

20) 州内の公文書から食堂のメニューまで両言語の併記が定められている。

21) 李東哲、権宇「延辺地域における看板の朝駐二言語併記について」『朝鮮族研究学会誌』第5号、2015年12月、pp.58-74

ど)<sup>22)</sup>。延吉市など延辺州の都市部(図們, 龍井など)は朝鮮族人口が未だ 50% を上回っているものの, それでも戸籍登録された朝鮮族人口と実際の常住者数にはかなりの開きがあると思われる。

その原因は 1990 年代に始まる移住労働で, 多数の朝鮮族は韓国, アメリカ合衆国, 日本などの海外や, 中国内で経済開発の進んだ沿海都市部(北京, 青島, 上海, 深圳など)に積極的に進出した。とりわけ朝鮮族にとって父祖の地である韓国には, 1992 年の中韓修好を契機に朝鮮族男女が先を争うように渡航し, インフォーマルセクターの 3K 労働と韓国社会の排外主義に耐えながら, 地道に労働生活を重ねてきた。2015 年韓国法務部の統計によれば韓国滞在中の朝鮮族は実に 70 万人を数え, 全朝鮮族の 4 割が韓国に滞在している計算である。中国経済の成長目覚ましい近年では 1990 年代ほどではないが, 中国と韓国の賃金格差を考えれば, 延吉市内の食堂従業員やタクシー運転手として働くより韓国での労働に耐えたほうが短期間で多くの収入を得られる。それが, 延吉市内のお店で働く朝鮮族の姿が消えた由来だった。

朝鮮族の 25 年に及ぶ韓国など国外における労働収入は, 延辺を大きく変貌させた。2013 年に年間 10 億ドルに上る海外からの外貨送金額は, 延辺州の域内総生産額の三分の一に達すると伝えられている<sup>23)</sup>。延辺州は吉林省各市との域内 GDP の比較では第 6 位(2014 年)と比較的振るわないが, 個人平均貯蓄額では長春市を抜いて全省トップであることも外部送金額の多さを物語る。流入した外貨は産業基盤の弱い延辺では第三次産業を発展させ, 各種高級飲食店, 複数の大型百貨店と高級ショッピングモール, ビューティーサロン, ホテルから子供の学習塾に至るまで, 辺境の小都市としては突出したサービス業の隆盛をもたらした。

しかし地方都市の延吉では適当な投資先は多くなく, 余剰資金は自ずと不動産投資・投機に流れる。中国の不動産市場が不透明さを増すなかで, 延吉市内各地では現在でも高層マンションの建設が盛んに進められていて, 立地条件により 1 平方メートル当たり 6,000 元(約 12 万円)レベルの価格で販売される物件も珍しくない。これは吉林省都の長春と同水準である<sup>24)</sup>。人口 60 万ほどの地方小都市で特段の地場産業もない延吉において今後もマンション建設ラッシュが続けば, 早晚, 不動産物件の過剰に伴う価格低落に見舞われるのは必至に思われるのだが, 延辺大学の研究者や延辺州の幹部クラス公務員に質問すると(2015 年), 外部からの外貨送金が続く限り延吉の住宅バブル崩壊の懸念はないという楽観的見解が一様に戻ってくる。

積極的な海外移住労働が延辺朝鮮族社会にもたらした負の側面も少なくない。韓国同様, 中国朝鮮族は子供の教育への熱意が高いことで知られ, かつて中国東北部の朝鮮族農村には必ず

22) 延辺州統計局『延辺統計年鑑』2015 年版

23) 인민넷「연변 주택시장 과열…해외송금 부작용」2013.8.19 <http://korean.people.com.cn/65106/65130/69621/15343968.html>

24) 『길림신문』2015.2.25 「집값이 제일 싼 10 개 성소제지, 장춘도 한자리」[http://kr.chinajilin.com.cn/econ/content/2015-02/25/content\\_151447.htm](http://kr.chinajilin.com.cn/econ/content/2015-02/25/content_151447.htm)

朝鮮族小学校と中学校が設置されていた。1990年代初期に東北3省の朝鮮族小・中・高等学校は1,200校を数え、延辺自治州だけで300校を上回っていた。1949年に中国で唯一の特定民族（朝鮮族）高等教育機関として設立された延辺大学をはじめ、民族幼稚園から大学に至るまで朝鮮族教育は壮大な体系を誇ったのである<sup>25)</sup>。しかし朝鮮族移住労働の拡大によって朝鮮族農村人口の急減が起こり、農村から朝鮮族学校の閉校が始まった。その影響は次第に延吉など都市部にも及び、現在では1990年代前半期に比べ8割近い朝鮮族学校が統廃合され、延辺州内では2014年に小中高校合わせて全60校を残すだけになっている。朝鮮族学校の閉校は、朝鮮族集住地域からの離散に拍車をかけるとともに朝鮮族文化の維持発展に大きな弊害をもたらした。

また両親が海外など遠方に長期間働きに出かけたため中国の残された「留守児童」の養育、教育も深刻な社会問題になった。韓国の場合、近年では法制度の緩和で外国人労働者の本国往来や子供の韓国呼び寄せが容易になってきているものの、取り残された高齢者養護問題も含め家族の離散は朝鮮族社会が直面する重い課題である<sup>26)</sup>。延吉からさほど離れていない近郊の朝鮮族農村を訪ねると、高齢者以外の姿を探すのは難しく「限界集落」の様相を呈していることも稀ではない。ただし、裏山の松の古木を「御神木」にして観光開発を進め、あるいは習近平国家主席の見学来訪実績を売り物に観光客集めを図るなど、あれやこれやの手で集落の維持発展に知恵を絞るいくつかの朝鮮族農村を見学すると、地域社会のために奮闘する朝鮮族老農民の活力と見識に感服させられるケースがある<sup>27)</sup>。

## 5、延辺と朝鮮半島

中朝国境地帯にある延辺は、南北朝鮮と関係が深い。ひところは朝鮮民主主義人民共和国からのいわゆる「脱北者」が多数逃げ込む地域として日本で報道されたため、筆者は現地を知らぬ人々から「危険ではないのか」という質問をたびたび受けてきた。

しかし、そもそも延辺朝鮮族の多くは豆満江を挟んで対岸の朝鮮咸鏡道の出身者とその子孫であり、朝鮮半島から眺めると延辺は朝鮮北部の文化圏と見えなくもない。かつては国境管理もさほど厳格ではなく、国境の川を挟んだ同胞同士で日用品や食料を日常的に融通しあっていたという話を朝鮮族古老から聞いたことがある。1990年代初頭に、筆者が延辺の西隣にある

25) 최상목 『중국조선족교육의 현황과 전망』 1995 参照

26) 金英花 『中国朝鮮族の国際的な移動と子どもの教育 ―出稼ぎの変容と留守児童の問題から見る家族生活―』 宇都宮大学博士学位論文、2014年、参照

27) 「御神木」の村は延吉からタクシーで20分ほどの延吉市SH村。林梅 『中国朝鮮族村落の社会学的研究―自治と権力の相克』 お茶の水書房、2014年に詳しい。習近平国家主席が2015年7月に来訪した延辺州和龍市光東村は延吉から車で50分ほど。筆者は2015年と16年に両村を訪ねた。

長白山(白頭山)麓の長白朝鮮族自治州を訪ねた折には、町中の商店内で「朝、鴨緑江を越えてきた」という朝鮮人少年に出会い(子供の往来は国境で見逃されることが多かったようだ)、鴨緑江源流の幅の狭い流れの両岸では双方 10 名ほどの主婦が並んで朝鮮語で何やら楽し気に声を交わしながら洗濯に興じている光景を、目の当たりにすることもできた。1960 年代初頭、中国の「大躍進運動」が失敗に終わり中国経済が混乱したころ、食料や職を求めておそらく数万人単位の延辺朝鮮族が国境を越えて朝鮮に帰った事実もある<sup>28)</sup>。現地の人々にとって、川は国境というより村境の感覚であったように思われる。

豆満江には中国と朝鮮間の通商口が 7 か所あり、特に図們大橋は国境を眺めることのできる観光地として有名である。入場料を払って中国側の橋のたもとにある展望台に登ると、国境の橋を往来する人やトラック、朝鮮側の小さな街である南陽市を一望することができる。「国境線」と書かれた橋の中央部まで歩いていくことも可能で、中国人や韓国人の観光客が片足を朝鮮側に踏み込み笑い声をあげながら記念写真を撮っても問題は起こらない。夏場は、さほど広くもない河の中央部を観光船が走り、川岸で魚を掬っている朝鮮市民を間近で通り越すこともある。もちろん、目を凝らせば中朝双方の警備も確認できるのだが、少なくともこの場所では穏やかな国境風景が広がっている。因みに、2014 年の統計によると延辺州の対外貿易の相手国は朝鮮(輸出入額: 6 億 5,397 万米ドル)が断然トップであり、ロシア(同: 3 億 9,714 万米ドル)、韓国(同: 2 億 2,526 万米ドル)、日本(同: 1 億 8,437 万ドル)の順になっている<sup>29)</sup>。延吉市内には朝鮮系資本<sup>30)</sup>のホテルや複数の朝鮮料理店があるほか、大型スーパーマーケットには「朝鮮水産物」のコーナーがあって生きたカニなど朝鮮直輸入の鮮魚類が売られている。高価だが、中国人の美食家たちには人気である。朝鮮の核開発は問題であるにせよ、カニの代金が核ミサイル開発の原資になる、といった類の言説が延辺で聞かれることはない。

数年前、延吉から直行の国際バスでロシア沿海州のウスリスクに向かった際<sup>31)</sup>、朝鮮旅券を持った貿易商風の人物が何人も同乗しているのを目撃したことがある。朝鮮とロシア沿海州間は直通列車があるので、おそらく朝鮮と中国・ロシアを跨いだ商取引に従事しているのだろう。外貨に乏しい朝鮮からすれば、重要度の高い仕事である。

かつて延辺朝鮮族社会のなかで朝鮮民主主義人民共和国の影響は大きかった。「親族訪問」の名目で、簡単な手続きで朝鮮を往来することも可能だったこともある。韓国との関係が急速

28) 延辺州『延辺朝鮮族自治州志(上)』中華書局、1996年、pp.584には1961年に延辺から朝鮮への越境者1万1135人のうち7893人は「求職謀生」を目的とした、とある。

29) 『延辺統計年鑑』2015年版

30) 在日朝鮮人企業の出資するものもある。

31) 延吉バスターミナルを早朝出発し、琿春の長嶺子通商口からロシアに入る。ウスリスクまで入管手続きを含めて8時間ほど。バス代はおおよそ7,000円(2016年2月)。ウスリスクからウラジオストクまではバスに乗り換えて1時間半ほどかかる。

に拡大した過去四半世紀で、中国朝鮮族の視座が韓国寄りに変化してきたのは紛れもない事実だ。延辺大学の朝鮮族学生たちが朝鮮を韓国人のように「北韓」と発音し「(北韓は) なんだか怖い」などと話していても、あまり驚かなくなった。1994年7月金日成主席が急死したとき、延辺に滞在していた筆者は街角でアイスクャンディーを売る朝鮮族老婦が「同じ時代を生きてきたのだから、寂しいねえ」と話すのを聞き、ふと胸を衝かれた経験がある。大きな様変わりではあるが、延辺大学キャンパス内で研究留学中の朝鮮人研究者の姿を見かけると、延辺には未だ最低限のバランス感覚が残っていることを感じることもできる。

延辺に進出する韓国企業は2014年に397社・総投資額8億3,734万米ドルで2位の日本企業49社・総投資額4,303万米ドルを圧倒する。ただし韓国企業は一社当たりの投資規模が小さいことが分かる。中国経済の停滞が顕著になった2013年から15年にかけて、韓国企業の中国撤退も報じられた<sup>32)</sup>。それでも「辛ラーメン」など韓国を代表する食品企業である農心が長白山麓にミネラルウォーター工場を作って中国で売り出しているほか、韓国最大の鉄鋼会社ポスコと現代グループの共同する物流会社が琿春で大型物流団地の整備計画を進めるなど、韓国大手企業の進出も始まっている<sup>33)</sup>。さらに2015年夏から琿春—ロシア・ザルビノ—釜山を結ぶ貨物船航路が復活し、対朝鮮経済制裁緩和後を狙った中韓経済関係の新展開を伏流させている。

今や韓国の各主要都市から延吉行き航空便は毎日就航しており、ソウル—延吉便は増便されてもなかなかチケットを取ることが難しいほどの混雑状況である。人の往来や韓国テレビ放送の受信、インターネットを通じて、延吉には韓国社会の文化的動向が即日のうちに反映される。延吉には韓国商品専門店が無数にあり、生活スタイルからファッションや食生活に至るまで韓国の生活そのものが大きな位置を占めている。延辺の韓国資本植民地化を嘆く識者の声も聞かれるが<sup>34)</sup>、ソウルにも平壤にもない延辺独自の朝鮮料理のレストランは韓国人にも中国人にも人気があり、朝鮮東北部の抑揚と中国語の言語的影響を受けた「延辺朝鮮語」の言語世界も、その独自性を失っていない。延吉は南北朝鮮の空気を濃厚に漂わせながらも、なお朝鮮族独自の文化や意識を固守する社会背景を維持していて、中国の他の都市とは全く異なる様相を強烈に感じ取ることができる街といえよう。

32) 中央日報（日本語版）「中国から相次ぎ撤退する韓国企業」2015年8月5日 <http://japanese.joins.com/article/073/204073.html>

33) 김립신문 「연변농심백산수와 훈춘포스코현대물류는 지금」2014.11.4 / 연합뉴스 「연변 훈춘시, 한중경협 주요 무대로 새삼 주목」2016.5.30

34) 설혜심 「한국사회의 일그러진 자화상: 내부 식민주의와 조선족」『동아시아재단 정책논쟁』제8호, 2014-08-12 [http://www.keaf.org/book/EAF\\_Policy\\_Debate\\_A\\_Twisted\\_Self-Portrait:\\_South\\_Koreans\\_Korean-Chinese\\_and\\_Internal\\_Colonialism\\_kr?ckattempt=1](http://www.keaf.org/book/EAF_Policy_Debate_A_Twisted_Self-Portrait:_South_Koreans_Korean-Chinese_and_Internal_Colonialism_kr?ckattempt=1)

## 6, 延辺と日本

1945 年日本の帝国主義的侵略が終結したのち、延吉は旧「満洲国」にいた日本人たちの引揚者が結集する街の一つだった。朝鮮半島を南下して日本に戻るルートが考えられたからである。しかしソ連占領下で中朝国境の日本人通過は厳しく制限され、大半の日本人は翌 46 年に始まる遼寧省葫蘆島からの引き上げを待つことになった。国共内戦が始まろうとしていた時期、延辺に進出した中国共産党の軍隊は日本人の技術者や医療関係者に残留して中国側に協力するよう依頼した。いわゆる「留用」で、これに応じた日本人も少なくなかったようだ。詳細は不明だが、延辺大学後方の丘の上に開かれた延辺革命烈士陵園には、立ち並ぶ革命烈士の墓石の中に日本人の名前の刻まれたそれを五つほど探すことができる。女性名が多く、おそらく医師または看護師として留用され国共内戦中（あるいは治安平定のための「土匪肅清」戦闘）に被弾、または病死した方ではないかと推測される。日本人の訪問客を案内すると、一様に驚かれる場所である。

引揚者が去った後、延辺に日本人の影は消えたが、改革開放後の 1985 年に早稲田大学で朝鮮文学を研究する大村益夫教授が延辺大学にて一年間滞在され、初めて延辺自治州の社会の様子を日本に伝えた<sup>35)</sup>。大村教授は、延辺出身で植民地末期に日本で獄死した韓国の国民的詩人・尹東柱の墓を延辺の龍井郊外で発見し、墓の存在を韓国や日本の研究者に伝えたことでも知られる。今日では、尹東柱の眠る墓域は延辺を訪れる韓国人観光客にとって必須の観光コースになっている。延辺大学に日本人留学生が学ぶようになるのは、1980 年代末からのことである。

中国の市場経済や「環日本経済圏」が喧伝されたことで、1990 年代の中盤になると延辺に注目する日本企業も現れた。しかし中朝ロシア国境という日本から見ると不安定そうなロケーションに加え、インフラや日本海を往復できる海上航路の未整備がネックとなり、次々と延辺に乗り込む韓国企業をしり目に、実際に進出する日本企業は極めて稀だった。それでも 21 世紀に入るところには、一定のインフラ整備や延辺州の外資誘致の努力もあり、延辺に支社や工場を置く日本企業も現れるようになった。

2015 年から 16 年にかけて、筆者はそうした企業のいくつかを訪問する機会を得た。訪問順に、図們経済開発区の天三（延辺）木業新産品開発有限公司、琿春市辺境合作の小島衣料（琿春）服装有限公司、延吉市経済開発区の延吉秀愛食品有限公司、同じく延吉開発区の神豊信息技術（延辺）有限公司、同じく延吉開発区の延吉富文科学技術有限公司である。延辺進出が早

35) 大村益夫「延辺生活記」『季刊三千里』47 号 - 49 号 1986 - 1987 年

いのは天三木業で、1994年から操業している。千葉県に本社のある株式会社テンサンの現地法人で、主に合板を用いた中国内向け住宅用資材を生産している。60名ほどの漢族労働者が木材加工や塗装に熱心に取り組んでいた。近年は延辺でもハードな作業を伴う労働は忌避される傾向があり、対応して下さった日本人駐在員の方は格安の三食付き寮を提供し日当100元という条件でも、なかなか労働者が集まらないと嘆いておられた。延辺は長白山地域の森林資源や国境を越えて輸入されるロシア・シベリアの木材の活用が有望視されてきたが、近年では環境保護の観点から中国、ロシアとも森林伐採の制限が厳しくなり、原材料の入手が難しくなっているとのことである。

天三木業は採用していなかったが、図們経済開発区は3,000人の朝鮮人労働者を受け入れていて、開発区内で中国人と見分けのつかない姿の朝鮮人労働者の姿を多数見かけた。

延辺進出企業で規模が大きいのは岐阜県に本社のある小島衣料で、延辺では日本向け高級レディス衣料をOEMで生産し、日本の有名ブランドに卸している。労働者は漢族300名で月生産数は45,000pics。平均給与は社会保険込みで月3,500元と比較的割高だが、若者の事務職志向で人手募集に苦労しているとのことだった。小島衣料は早くから琿春ーザルビノ経由で新潟など日本海都市を結ぶ日本海航路の運航を行政などに強く訴えてきたことで知られる。高速鉄道の開通で急速に変わる琿春の存在感を高めることで、今後の展開を期しているとのことである。

秀愛食品は東京に本社を置く食材専門商社の正栄食品工業が全額出資して設立され、当地では松の実などのナッツ・シード類の原料調達と乾燥・脱殻・脱皮・機械選別及び目視選別・包装を一貫して行っている。工場内の衛生管理や作業工程が日本式に徹底されているのが印象的である。製品は食材として多用する欧米への輸出が中心で、一部は日本の有名食品会社でも使われている。社員数は250名だが、ここでも人手不足が話題になった。天三木業や小島衣料と同様、製品を大連港から積み出しているが、こちらの会社では日本海航路計画にコスト面での問題を感じるとのことである。食品会社らしく、昼食にご馳走になった社員食堂の延辺式麺料理は絶品だった。

神豊情報技術と富文科学技術は、どちらもIT企業である。神豊は神奈川トヨタのグループ企業であるシンポー情報システムが100%出資して設立され、中国トヨタ向けソフト開発・設計、日系企業向けソフト開発設計を担っている。延辺進出の理由をうかがうと自然環境がよく、朝鮮族は言語能力が高く、また日本の生活習慣と親和性があるためとのこと。IT技術は就職後の研修期間に学習させるが、ソフト開発は半年～1年程度の実務体験で対応できるようになるという。しかしここでも、人材の流動性が高く人手の確保が課題になっていた。ただ近年は、ストレスの高い北京や上海のような大都市より、多少給料が低くても落ち着いて生活のできる出身地方都市を選好する若者も増えているという。

富文科学技術は日本の銀行や保険会社向けデータ入力の仕事を中心としている。東京のビジネス・サポート・センター (BSC) の関連会社である。社員は漢族と朝鮮族が半分ずつで、朝鮮族への評価が高かった。大学や専門学校卒業生から採用しているが、社員の移動が激しく会社で育てた人材の確保が焦眉課題とのことである。偶然、社員の中に立命館大学留学経験者で、かつ筆者の授業を履修した男性がいて、大いに驚かされた。彼もまた、大都市よりも地元延吉の生活を気に入っているとのことである。訪問したいずれの会社でも、日本人社員が口々に延辺朝鮮族の多言語能力を評価し、また延吉の暮らしやすさを強調したのが印象的である。ただ、日本ではなかなか理解されないのが、日本企業進出に壁になっているとの声も多かった。日本企業にとって、延辺の多民族・多言語環境は肯定的に受けとめられているが、東北の地方都市にも押し寄せている労働力不足と人権費上昇の波は、今後さらに深刻化する可能性があるだろう。

中国朝鮮族は、日本にも移住している。韓国よりも格段に外国人管理の厳しい日本には、1980年代に始まる中国人国費留学生の一員として少数の朝鮮族学生が来日し、以後、私費留学生やIT技術者など比較的高学歴の朝鮮族が滞在するようになった。すでに日本の大手企業社員として、あるいはITビジネスの経営者、さらには大学教員など専門職で働く在日朝鮮族も少なくない。5万人程度と推測される在日朝鮮族は、日本の朝鮮植民地支配に起因する在日コリアン社会や1980年代以降に急増する韓国人在日ニューカマーたちとは微妙な距離を保ちながらも、日本で独自のコミュニティを築きつつある<sup>36)</sup>。ただし、彼らは国籍上中国人としてカウントされ日本社会の中では不可視的なマイノリティといえる。

## 7, おわりに

筆者が最初に延辺を訪ねたのは1991年8月で、当時の延吉は交通も日本からはるかに遠く、市場化が本格化する直前の静かな秘境の街という趣だった。ただ、そこで出会った朝鮮族の人々の活気と人間的な情感の深さに大いに魅せられ、以後、何度もその地に足を運ぶことになった。以来四半世紀の時間が流れ、中国のどの都市にも劣らぬほど延吉の街は激しく姿を変えた。何よりも、多くの人々は国外や国内の他都市へと移動を繰り返し、25年前に延吉の街で知り合った幾人かの朝鮮族で、今もなお延辺に暮らしている人はいない。同じコリアンとして、彼ら中国朝鮮族のフットワークの軽さには、ひたすら驚かされるばかりである。

延辺の街や人々が変化する一方で、延辺を取り巻く国際的な政治社会は、それほど大きな変化を経たといえないだろう。朝鮮族の故地である朝鮮半島の分断は一向に解消される気配がな

36) 2016年8月、在日朝鮮族の諸団体が連合して主催した朝鮮族運動会には2,000名の参加者があった。『연변일보』2016.8.16 [http://www.iybrb.com/gih\\_view.aspx?id=4166](http://www.iybrb.com/gih_view.aspx?id=4166)

く、ナショナリズムの暗い影が見え隠れし始めた東アジアでは日中、日韓、日朝すべての関係が凍り付いている。そうした中で、例えば中国、韓国、日本三か国の国境を跨ぎながら移動し、移動しながら各地にトランスナショナルな人的ネットワークとコミュニティを広げつつある中国朝鮮族の存在は、国民国家間の議論とは少なからず離れた別次元で人間が生きていける証のようでもある。もちろん絡みついた国際関係を一举に解きほぐす夢の解決策を朝鮮族に仮託するわけではないが、本稿で振り返った中国朝鮮族の過去と現在の物語、それを背景に生み出される東アジア各国の人々との多様な結びつきは、当面朝鮮族しか持ちえない貴重な文化的、社会的資本と言える。

国境や民族のはざまで生きる人々の暮らしが、21世紀の地球社会で普遍的な意味合いを持ちつつあることを思えば、今後の延辺と朝鮮族の人々の進む先に大いに関心を掻き立てられるところである。

#### 参考文献

- 大村益夫「延辺生活記」『季刊三千里』47号－49号 1986－1987年  
 金英花『中国朝鮮族の国際的な移動と子どもの教育－出稼ぎの変容と留守児童の問題から見る家族生活－』宇都宮大学博士学位論文，2014年  
 小林信介『人びとはなぜ満州へ渡ったのか－長野県の社会運動と移民』世界思想社，2015年  
 李海燕『戦後の「満州」と朝鮮人社会－越境・周縁・アイデンティティ』，お茶の水書房，2009年  
 李東哲，権宇「延辺地域における看板の朝中二言語併記について」『朝鮮族研究学会誌』第5号，2015年12月，pp.58-74  
 林梅『中国朝鮮族村落の社会学的研－自治と権力の相克』お茶の水書房，2014年
- 《朝鮮族簡史》编写組『朝鮮族簡史（修訂本）』民族出版社，2009年参照  
 金景一「关于中国军队中朝鮮族官兵返回朝鮮的历史考察」『史学集刊』，2007年03期，pp.57-59  
 朴昌昱『中国朝鮮族历史研究』延辺大学出版社，1995年  
 沈茄秋『延邊調査實録』1930年（1987年，延辺大学出版社復刻）  
 延辺州统计局『延辺統計年鑑』2015年版  
 延辺州『延辺朝鮮族自治州志（上）』中華書局，1996年
- 강석화「白頭山定界碑와 間島」『韓国史研究』96号，1996年  
 강창록『주덕해』，실천문학사，1992  
 리준수「조선족인민속에서」『중국조선민족발자취총서 5승리』민족출판사，1992  
 엄인호（廉仁浩）『또 하나의 한국전쟁 - 만주조선인의 조국과 전쟁』，2010  
 이종석『북한 - 중국관계 1945-2000』중심，2000年  
 최상록『중국조선족교육의 현황과 전망』1995参照  
 설혜심「한국사회의 일그러진 자화상 : 내부 식민주의와 조선족」『동아시아재단 정책논쟁』제 8호，2014-08-12 [http://www.keaf.org/book/EAF\\_Policy\\_Debate\\_A\\_Twisted\\_Self-Portrait:\\_South\\_Koreans\\_Korean-Chinese\\_and\\_Internal\\_Colonialism\\_kr?ckattemp=1](http://www.keaf.org/book/EAF_Policy_Debate_A_Twisted_Self-Portrait:_South_Koreans_Korean-Chinese_and_Internal_Colonialism_kr?ckattemp=1)（2016年10月10日検索）

『延辺日報』 1948 年 11 月 2 日

『東北朝鮮人民報』 1950 年 10 月 17 日

길림신문 2015.2.25 「집값이 제일 싼 10 개 성소재지, 장춘도 한자리」 [http://kr.chinajilin.com.cn/econ/content/201502/25/content\\_151447.htm](http://kr.chinajilin.com.cn/econ/content/201502/25/content_151447.htm) (2016 年 10 月 10 日檢索)

길림신문 「연변농심백산수와 훈춘포스코현대물류는 지금」 2014.11.4 [http://www.jlcnwb.com.cn/econ/content/2014-11/04/content\\_145679.htm](http://www.jlcnwb.com.cn/econ/content/2014-11/04/content_145679.htm) (2016 年 10 月 10 日檢索)

연변일보 2016.8.16 「재일중국조선족운동회 도교서 현황리에 개최」 [http://www.iybrb.com/gih\\_vew.aspx?id=4166](http://www.iybrb.com/gih_vew.aspx?id=4166) (2016 年 8 月 18 日檢索)

연합뉴스 2016.5.30 「연변 훈춘시, 한중경협 주요 무대로 새삼 주목」 <http://www.yonhapnews.co.kr/bulletin/2016/05/30/0200000000AKR20160530161900097.HTML> (2016 年 11 月 25 日檢索)

인민넷 2013.8.19 「연변 주택 시장 과열 ... 해외 송금 부작용」 <http://korean.people.com.cn/65106/65130/69621/15343968.html> (2016 年 11 月 25 日檢索)

중앙일보 2016, 6, 28 “대고조선이나, 소고조선이나 고대사 논쟁 다시 격렬해진다” (2016 年 10 月 1 日檢索)

中央日報 (日本語版) 2015 年 8 月 5 日 「中国から相次ぎ撤退する韓国企業」 <http://japanese.joins.com/article/073/204073.html> (2016 年 11 月 25 日檢索)